

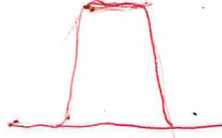
B-3 次の記述は、AM(A3E)受信機の間周波変成器について述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

- (1) 通過帯域内の周波数特性は、できるだけ **ア** ^{IFT} **ア** ^{平坦} なことが望ましく、また、通過帯域外の両側の周波数特性における **イ** ^{減衰傾度} **イ** ^{減衰傾度} はできるだけ大きいことが望ましい。
- (2) 中間周波変成器には、一般に一次側及び二次側に同調回路を持つ **ウ** ^{複同調} **ウ** ^{複同調} 形が用いられ、その周波数特性は **エ** ^{単峰} **エ** ^{単峰} 及び **オ** ^{双峰} **オ** ^{双峰} 特性に大きく分けることができる。双峰特性の中間周波変成器は、通過帯域幅を広くすることが比較的容易であり、**カ** ^{忠実度} **カ** ^{忠実度} を良くすることができる。ただし、必要以上に広くすると、混信を受ける原因となる。

- | | | | | |
|--------|--------|------|--------|-------|
| 1 単一同調 | 2 2乗特性 | 3 平坦 | 4 減衰傾度 | 5 忠実度 |
| 6 複同調 | 7 単峰特性 | 8 急峻 | 9 増幅度 | 10 感度 |

3 4 6 7 5


複同調形




疎
狭い
単峰特性


密
広い
双峰特性

(HZ209-7)